

## 「清掃」と「ゴミ拾い」について

前回は、『耕人塾』の実践事項である「あいさつ」について、「礼」も含めて述べましたが、今回は、実践活動の「清掃・ゴミ拾い」について考えてみましょう。

「清掃」と「掃除」は、どちらも「きれいにする」という点では同じですが、本来はその意味に少し違いがあるようです。「掃除」は、一般的にはゴミ捨てや汚れを落とすこと、散らかっているものを片付けることなどを指します。辞書でその意味を調べてみると、「掃いたりふいたりして、ごみやほこり、汚れなどを取り去ること」とあります。「掃除」は、もともと中国語で「ソウジョ」と読み、「払う・拭(ぬぐ)う」という意味がありました。それがのちに現代の掃除(ソウジ)の意味になったのです。自宅の部屋や玄関の掃除、掃除機がけやお風呂掃除などは、掃除に当てはまります。

したがって、「掃除」は比較的狭い範囲で見える場所をきれいにすることをいい、誰もが気軽にできるものがほとんどです。それに対し「清掃」とは、見えない場所まできれいにすることをいいます。より念入りに、隅々まできれいにするという点で、「掃除」とは異なります。

『耕人塾』でも使用した会場を塾生や教学委員が協力して清掃している姿はとても爽やかで和やかな気持ちにさせてくれます。丁寧に「清掃」することは、使わせていただいたものへの感謝に繋がります。塾生の皆さんには、感謝の心を込めて清掃をしてほしいと願っています。

次に、「ゴミ拾い」についてですが、「ゴミ拾い」は単なる清掃活動ではなく、自分と向き合う行為だと思います。今年も『耕人塾』では、石巻市の川開き祭り会場をはじめ女川町の駅周辺や東松島市宮戸の海岸などでも「ゴミ拾い」を行います。道路や公園などに捨てられたペットボトルや空き缶、ビニル袋やたばこの吸い殻など、きれいに植えられている花や木々のなかに、隠すようなかたちでゴミが捨てられていることもあります。背景には“誰にも見られないなら問題ない”という考えがあるのかもしれませんが。景観を損ねるだけではなく、川から海へと流れて海の生物が汚染されるという大きな問題にも気付かされます。

特に、100回目となる今年の石巻川開き祭りでは、石巻川開き祭りゴミ・ゼロ・ボランティアの方々と協力し、祭りの最中もポイ捨てゴミが落ちていない、きれいな祭りを実現したいと考えています。ゴミを拾うということは、奉仕の心を形に表すことであり、地球環境を守ることに繋がります。喜んでさりげなく「ゴミ拾い」をしながら、自分と向き合うことを大切にしていきたいです。

## 「虚往実帰(きょおうじつき)」 「莊子」より

「虚」は謙虚、「往」は往復、「実」は充実・実る、「帰」は戻ってくると考えれば、「虚にして往き、実にして帰る」は、「心のわだかまりや先入観を捨てて出向いてみましょう。そうすればやがて満ち足りた思いで帰って来ることができるでしょう。」と解することができます。しかし、先入観やわだかまりを捨てるということは至難の業です。発想の転換とプラス思考で物事を見たり、見方を変えてみると違う新たなアイデアが生まれてくるのではないのでしょうか。